

令和6年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 「秋の花山フェスティバル」報告書

1 趣旨

地域の大人が一丸となって子ども達に多様な遊び、体験の場や機会を創り出す「体験の風をおこそう」運動の一環として、国立花山青少年自然の家（宮城県栗原市）を会場に「秋の花山フェスティバル」を開催する。

2 主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

3. 後援

宮城県教育委員会、栗原市教育委員会

4. 期日

令和6年10月19日（土）～令和6年10月20日（日）【1泊2日】

5. 会場

国立花山青少年自然の家 館内 及び 周辺フィールド

6. 概要

(1) 参加者数 宿泊 61人
日帰り 214人

(2) 内容

【10月19日（土） 日中】

■体験ブース

- ①ボーイスカウトのデイキャンプ（日本ボーイスカウト宮城県連盟）
- ②チャレンジ！デイキャンプ（一般社団法人宮城県キャンプ協会）
- ③はたらくくるま大集合（警察署、消防署）
- ④マイスプーン・マイフォーク・バードコールづくり（志津川自然の家）
- ⑤野鳥マグネットづくり（オーエンス泉岳自然ふれあい館）
- ⑥空き缶ランタンづくり（松島自然の家）
- ⑦VRでジオパークの空中散歩（栗駒山麓ジオパーク推進協議会）
- ⑧理科実験コーナー・数学実験コーナー（岩ヶ崎高校） ⑨焼き板づくり
- ⑩ココどこ？オリエンテーリング ⑪ニュースポーツ（スカットボール）体験 ⑫重さあてゲーム！

■ステージ発表・イベント

- ①シャボン玉アート（森のくまさん） ②花山神楽保存会 ③フラアロハ ④南部笹流大平神楽

■飲食ブース

- ①有限会社 鳥恵 ②あげパンのキッチンカー BROWN ③サンリオカフェワゴン
- ④焼肉俺ん家 ⑤Ivy.bare.& ⑥丸江スーパー ⑦株式会社ニッコトラスト

【10月19日（土） 夜プログラム】

- ①ナイトハイク ②たき火体験（一般社団法人宮城県キャンプ協会） ③ミニゲーム大会

【10月20日（日） 日中】

■体験ブース

- ①ボーイスカウトのデイキャンプ（日本ボーイスカウト宮城県連盟）
②チャレンジ！デイキャンプ（一般社団法人宮城県キャンプ協会）
③はたらくくるま大集合（警察署） ④焼き板づくり ⑤ドラム缶ピザづくり ⑥紅葉ハイキング
⑦ココどこ？オリエンテーリング ⑧ニュースポーツ（スカットボール）体験 ⑨重さあてゲーム！

■ステージ発表・イベント

- ①築館健康ダンス協会 ②はいはいレース はなやまカップ ③若柳よさこい桜
④花山神楽保存会 ⑤フラダンスサークル フラハーラウマーヘアラニ
⑥シャボン玉アート（森のくまさん）



クラフト体験



フラダンスステージ発表



紅葉ハイキング

7. 成果と課題

（1）参加者アンケート結果

満足：75.0% やや満足：18.8% やや不満：6.2% 不満：0%

（2）参加者の声

- ・スタッフの皆さん明るく親切、フレンドリーでとても良かったです。
- ・物作り体験が多くあり楽しい。
- ・玄関でのシャボン玉アートが歓迎されているようで、ワクワクが詰まっていた。

（3）成果

- ・出展ブースやステージ発表、飲食ブースに外部から合計23団体110名の協力をいただき、地域を巻き込んだ事業を展開することができた。
- ・昨年度は職員やボランティア、実習生等の総数は44名だったが、今年度は大学の学園祭等のイベントと重なったために、ボランティアの人数を確保することができず、31名と限られた人員の中での実施となった。人数に制限はあったが、他団体が運営するブースを増やしたことにより、当日の配置を工夫することができ、2日間で延べ24の体験ブースを展開することができた。

(4) 課題

- ・今年度は配布先を栗原市近郊と仙台市に注力することと、SNS等での宣伝を増やすことを試みた。コスト面では、昨年度より3000枚ほど作成枚数を減らし、作成と郵送に係る支出を抑えることができた。しかし、参加者への周知が行き届かず、日帰り参加者数も宿泊参加者数ともに芳しくなかった。秋の体験活動を行う上での実施時期としては最適だが、県内各地で各種イベントを展開しているため、より参加者が来たいと思う体験プログラムや広報を打たなければならないと感じた。具体的な方法の一例としては、近隣の小学校には児童数分のチラシを送付するなど、各家庭に届くような工夫が必要であり、一定の予算を確保しなければならないと感じた。
- ・春先に担当者間での話し合いをもつことができたが、事業の大枠の確定から所内への展開が遅くなってしまった。担当者間での役割分担については、再検討の余地がある。
- ・昨年度は宿泊と二日目のみ日帰りを受け入れる実施形態であったが、今年度は宿泊と両日日帰り参加を受け入れた。天候等の影響が大きいと思うが、初日の日帰り参加者が少なかったことから、両日日帰り参加を行う需要は少なかったように思う。実施形態については協力団体や出展内容を踏まえて今後慎重に検討を行い、決定していく必要がある。

担当：事業推進係 高橋 諒